

日 峯 神 社

東山代町長浜

祭神、住吉三神・鍋島直茂・銅女命・猿田彦命・成富茂安

藩祖鍋島直茂は領内に食塩の乏しきを憂いて、その自給を企て山代郷奥浦の住人中尾六右エ門に塩田開発を命じ、慶長十三年（一六〇八）藩主は黒田長政に請って筑前姪浜より製塩業の師武藤九郎兵衛、志田孫兵衛等を招き慶長十九年（一六一四）製塩を始めた。筑前姪浜より製塩の守護神である住吉大明神の分霊を勧請して浮島（うげしま）に志賀神社を（一説には神霊を筑前志賀の島から分請したとも伝えられる）建てさせて祭料を付し、又薪料として奥浦山を与え製塩運搬の無判船を許して保護奨励を加えた。

其の後数次に亘り海面を埋め弘化五年（嘉永元年（一八四八）三月）直正は更に新搦を埋築、塩業を拡張し世に「長浜塩」と言う名声を博するに至った。毎年正月四日恒例として初塩献上の儀を行い、その後氏子により藩祖の遺業を不朽に記念する為、明治四十年（一九〇七）十月十五日藩祖直茂公の霊を合祀し志賀神社を「日峯神社」と尊称、以後氏子の崇敬の念、益々深く同時に猿田彦命外一柱を合祀し祭神とした。

明治五年村社に列せられた。現在の拝殿は皇紀二千六百年（昭和十三年）（一九四〇）記念事業として、新築されたものであるが、高所のため風雨にさらされ危険状態になった為、昭和五十五年氏子の総意により大修理を行った。

尚、拝殿の中央に「敬神」の額が掲げられている
書は鍋島十三代直映氏の書である。

